


(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	地域防災×地域交流プロジェクト		
申請大学・高校等名	大学・高校等名	関西国際大学	
	活動グループ名	地域防災プロジェクトチーム	参加学生等人数 28人
指導責任者名及び連絡先	学部・学科等名称	教育学部教育福祉学科	
	責任者氏名	松尾 和宣・岩本 裕子	連絡先電話番号
	E-mail		
指導責任者名及び連絡先	学部・学科等名称	経営学部経営学科	
	責任者氏名	田中 綾子	連絡先電話番号
	E-mail		
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	潮江社会福祉連絡協議会	
	代表者氏名	会長 藤原 靖彦	連絡先電話番号
	E-mail		
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	社会福祉法人阪神共同福祉会	
	代表者氏名	理事長 中村 太蔵	連絡先電話番号
	E-mail		
教育・研究活動目標	<p>本学では、防災士の資格の取得を全学的に行っている。防災士の資格を取得した学生に実際に地域防災の現場に出て、知識をと経験を結び付けることを教育面での目的とする。また、将来、福祉や教育の職に就く学生達が、地域の防災活動に参画し、防災活動の運営や防災教育を行うことは、就職後の職場で役立つのみならず、地域の防災リーダーとしての活躍していくことが期待できる。</p> <p>このような活動を通して、学生が地域の高齢者や子ども達、生活弱者の安全・安心を考え、地域の自主防災の普及と地域連携の推進を行うことを目的とする。</p>		
活動内容及び実績、評価	<p>〈活動内容及び実績〉</p> <p>1. 市民・学生への「災害アンケート」の実施</p> <p>「あまおだ減災フェス」での発表を目標に、三和商店街の関係者の方々や尼崎キャンパスの学生及びその家族等に災害時の対応や課題についてのアンケート調査を実施し、「あまおだ減災フェス」で掲示しました。</p> 		

2. 11月27日(土)「あまおだ減災フェス」(小田南生涯学習プラザ)

防災力向上のための「あまおだ減災フェス」に出展した。ひとたび災害が起きて、避難所に避難することになれば、地域住民自らが主体的に運営に携わっていく必要がある。いざという時、どのような問題が起きるのか、カードを使ってみんなで疑似体験する「避難所運営ゲーム『HUG』」を、「ちーぼ」のメンバーがより効果的に時間を短縮してできるよう、工夫してカードを作成し、ゲームを通じたワークショップを行った。



また、それに合わせて事前に行った避難行動や、避難所での不安等についてのアンケートの結果も掲示し、多くの住民の方々に参加いただいた。

3. 11月28日(日)「防災訓練参加(潮江・浜田地区)」

潮江地区・浜田地区の自主防災会主催の防災訓練に参加した。(潮江地区8名・浜田地区7名参加)

潮江地区では、応急給水栓給水訓練やマンホールトイレの設営なども実際に体験的に学びながら、住民の方々と交流することができた。

浜田地区では、応急給水栓給水訓練や非常食を使用した炊き出し訓練に参加した。



4. 3月19日(土)「おだらぶ雑談会」

小田地区の活性化を検討する市民の皆さんの交流の場「おだらぶ雑談会」に代表者が参加し、防災意識に関するアンケートの結果や、今までの学び、活動紹介をさせていただきました。

会場には連携団体を代表し、潮江社会福祉連絡協議会 藤原会長、社会福祉法人阪神共同福祉会 中村理事長にもお越しいただいた。

市民の皆さんと交流し、大学生が地域でできることなどについて意見交換を行った。



5. 3月21日(月・祝)

防災意識に関するアンケート調査の結果や今までの学び、今後の連携について交流会を午前中に潮江社会福祉連絡協議会と月曜サロン、午後から社会福祉法人阪神共同福祉会と久々知住宅にて行う予定であったが、コロナ感染症の拡大、蔓延防止重点措置の延長のため、延期となった。交流会の代替措置として4のおだらぶ雑談会に両団体の代表者にご参加いただき、報告することとなった。

(4/4 潮江社会福祉連絡協議会 月曜サロンにて交流会を実施)

(別紙3)

	<p>〈評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">・想定していた活動成果に対する達成度合い（達成できたこと、できなかったこと等） 本学の学生にとっての目的であった、「実際に地域防災の現場に出て、知識と経験を結び付ける」ことができるような経験をすることができた。また、これらの学生達の活動が、地域の高齢者や子ども達、生活弱者の安全・安心を考え、地域の自主防災の普及と地域連携の推進に寄与することができたと考える。・学生等関わった地域、団体の活動の変化等 アンケートでは、「今回このアンケートであらためて災害について考える機会になった」や、減災フェスでの結果報告に熱心に質問する市民の方が多くいた。 学生が作成した簡易版HUG（避難所運営ゲーム）のワークショップでは、「おもしろかった」「災害や、避難所での問題について具体的にイメージできた」「地域住民としてちゃんと考えていかないといけないと思った」「今まで気づいていないことがたくさんあった」などの声をいただき、地域の方々への啓発に貢献することができた。 また、防災訓練においては、学生の参加に対して地域の方々から、「心強い」「一緒に考え、行動してくれる学生がいることがうれしい」「今後も前向きに取り組んでいきたいと」などの声をいただくことができた。・学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等 地域の皆さんと実際に交流できたことで、1つには、地域の方々との距離が縮まり、地域の課題をより具体的に我がごとと感じることができたことである。2つ目に、各地で住民の方々に直接評価していただき、学生達自身が「もっと学んでそれを還元していきたい」というモチベーションが、活動をするごとに上がってきていることである。
--	---

※報告書の内容及び掲載写真は、市HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。